茨城新聞

2013年(平成25年)8月19日　月曜日

茨城大生

参院選報道を分析

新聞・テレビ ネット情報 メディアの特徴報告

参院選に関わる報道を観察した茨城大学生による報告会がこのほど、水戸市文京2丁目の同大で開かれ、選挙期間中の新聞やテレビの報道、インターネットの情報を分析した結果が発表された。

報道観察に参加したのは、同大人文学部の村上信夫教授（社会学）が指導する四つの授業やゼミの1～3年生。学生たちは受講している授業ごとにメディアを選び、参院選期間中の報道分析に取り組んだ。政治家と政党名の出現回数や報道の傾向、インターネット検索サイトを用いた検索結果の並び方や内容を詳細に分析し、意見を出し合った。

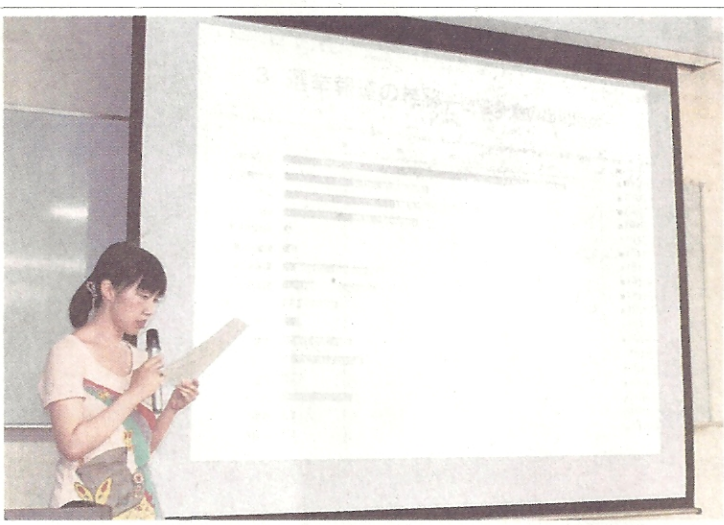
新聞の記事内容を比較した同学部2年の学生は「（選挙活動や選挙のすう勢を伝える）『ゲーム報道』がとても多く、マニフェストや候補者の特性が分からなかった」「特定の党に焦点を当てた記事が多かった」と指摘、報道に疑問を示す意見が上がった。

テレビ報道番組を分析した同学部2年の学生は「テレビ局ごとに報道量、内容の違いはあったが、（政策やマニフェストなどを伝える）『実質報道』が多かった。視聴者が多角的に捉えられる報道をしている番組もあった」とまとめた。

インターネットを担当した3年の学生は「憲法改正など、ネット上でも争点として注目されているものと、そうでないものがあった」と報告した。

村上教授は「若者は情報をネットで得ていると言われているが、自分の好きな情報しか見ていないかもしれない。新聞やテレビでも広く見てほしい」と学生に呼び掛けた。

（鈴木里未）



選挙報道観察結果を報告をする茨城大学生＝水戸市文京2丁目